

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	20	事務事業名 (中事業名)		高齢者生活支援事業 ( 高齢者タクシー利用支援事業 )					
予算科目	03	01	03	大事業	03	中事業	07	担当課名	長寿課
総合計画施策コード	-			事務開始年度	平成26年度		備考		
根拠法令等	-			作成月			令和3年9月		

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	通院や買い物等に公共交通機関では不自由な高齢者の移動手段を確保するため
事業の対象 (誰(何)のために)	一定条件を満たした移動手段のない、75歳以上の高齢者世帯
事業の概要 (具体的に何を)	交通手段の確保が困難な高齢者が医療機関への通院や買い物等のためにタクシーを利用する場合に料金の一部を助成。1ヵ月あたり500円の補助券を3枚交付。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)	
事業費①	6,992,856円	6,746,125円	9,125,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.10人	
事業にかかる人件費②	718,756円	726,645円	728,278円	
総事業費③(①+②)	7,711,612円	7,472,770円	9,853,278円	
総財源業内費 の ③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	7,711,612円	7,472,770円	9,853,278円
	その他	0円	0円	
R2 総事業費③の対前年度差額	-238,842円	R2 総事業費③の対前年度比率	-3.10%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (R2決算額)	項目	概要	金額	
	扶助費	交付者数644人 利用枚数13,780枚	6,682,050円	
	需用費(消耗品費)	チケット用紙代	64,075円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的						
	具体的な指標	タクシーチケット利用枚数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	12,150	枚	17,550	枚	18,090	枚
	実績値	14,331	枚	13,780	枚	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	タクシーチケット配布枚数					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	12,150	人	17,550	枚	18,090	枚
	実績値④	19,494	枚	21,126	枚	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
		396円		354円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【D0】

事業の委託状況	委託していない	委託の内容	-
事業の終了時期	-	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	-
事業の終了時期が未定の場合の理由	-		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
評価	妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	—	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
		国・県・市・民間との役割は適切か	○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
		変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	—
		事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
	有効性	事業の目的は達成できているか	○	公平性	受益者に偏りはないか	◎
		事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	—
		事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	○		受益者負担の割合は適切か	—
		他市町村と比べて上位に位置しているか	○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント		交通手段の確保が困難な高齢者の異動手段の一つとして利用された。				
事業の方向性	(評価)	3 今後は、内容を見直して事業を縮小する				
	(理由)	六万石くるりんバス等が整備されることにより利便性が増し利用者が増加した場合は事業縮小が可能になると思われる。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	市内の全タクシー業者と契約しているため、今後業者が増加すれば契約業者も増加する。					
事業全体の課題	高齢者の増加と運転免許書の自主返納に伴いサービスの利用者も増加するため、高齢者の移動の利便性を保ち予算の抑制する。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	各市独自の施策により、高齢者の移動確保を行っている。
---------------	----------------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	六万石くるりんバス等の整備されることにより利用者が増加し、併せて高齢者の利用増加が進んだ場合は事業の縮小が可能になると思われる。
--------	--

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	21	事務事業名 (中事業名)		敬老事業 ( )					
予算科目	03	01	03	大事業	04	中事業	00	担当課名	長寿課
総合計画施策コード	434		事務開始年度		昭和38年度		備考		
根拠法令等	-						作成月	令和3年9月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	長年にわたり社会の発展に貢献してきた高齢者を、敬愛し長寿を祝うため。
事業の対象 (誰(何)のために)	市内在住の高齢者
事業の概要 (具体的に何を)	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬老金の支給 数え100歳以上：祝金10,000円+祝品、数え88歳：祝金10,000円</li> <li>敬老事業委託料(令和元年度78歳以上、令和2年度79歳以上、令和3年度80歳以上) 代表町内会長に敬老事業を委託。78歳以上の高齢者1人当たり1,000円</li> <li>敬老会開催補助金 敬老会開催地区に1人当たり400円</li> </ul>

### ●事業費の内訳【DO】

項目	令和元年度(決算)	令和2年度(決算)	令和3年度(予算)	
事業費①	31,324,551円	28,702,526円	31,658,000円	
事業にかかる人工	0.30人	0.30人	0.30人	
事業にかかる人件費②	2,156,267円	2,179,936円	2,184,833円	
総事業費③(①+②)	33,480,818円	30,882,462円	33,842,833円	
総財源業内費 の③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	33,480,818円	30,882,462円	33,842,833円
	その他	0円	0円	0円
R2 総事業費③の対前年度差額	-2,598,356円	R2 総事業費③の対前年度比率	-7.76%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (R2決算額)	項目	概要		金額
	委託料	@1,000円×15,716人(対象者79歳以上)		15,711,528円
	敬老祝い金・記念品	@10,000円×129人 @1,500円(対象者数え100歳以上) @10,000円×864人(対象者数え88歳)		10,126,500円
	敬老会補助金	@400円×7,525人		2,759,663円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的						
	具体的な指標	敬老会対象者					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	19,000	人	16,640	人	15,470	人
	実績値	16,845	人	15,716	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	敬老事業委託金額					
	指標の推移	令和元年度	単位	令和2年度	単位	令和3年度	単位
	目標値	16,878,000	円	16,640,000	円	15,470,000	円
	実績値④	16,845,000	円	15,711,528	円	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)	令和元年度		令和2年度		令和3年度		
		2円		2円	*****		

●担い手の点検と事業の終期【D0】

事業の委託状況	全て委託している	委託の内容	敬老会事業
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	平成26年
事業の終了時期が未定の場合の理由	老人福祉法において、趣旨にふさわしい事業を実施するように努めるものとされているため。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない —:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価項目		
	評価	評価	評価	評価	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	○	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	◎
	国・県・市・民間との役割は適切か	○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	◎
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	◎
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	—
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	○		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか	○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント	事業目標の達成はできていた。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める			
	(理由)	事業を実施することで、高齢者同士の交流が図り、地域の高齢者を把握することができる。			
民間委託又は市民協働拡大の方向性	各地区の代表町内会長と委託をしており、委託先も適正であるため現状どおり実施を予定している。				
事業全体の課題	高齢者の増加に伴い事業費の増加見込まれたため、予算を抑制し事業を継続する。				

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	概ね同様の事業を行っている。
---------------	----------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	敬老委託事業の見直しである年齢の引き上げの緩和措置が令和3年度にて終了するため、今後は、委託先の意見も考慮し事業改善を行う。
--------	--